

3. 川越城址整備の基本的考え方

3-1. 川越城址整備の基本的考え方

川越城址整備の基本的考え方は以下のとおりである。

川越城址整備の基本的考え方(城址公園のとらえ方と初雁公園の位置付け)

1. 史跡川越城跡の本質的価値を守り、活かす。

- 史跡川越城跡の本質的価値の以下の4点を守り、活かす。

- 中世から近世に至る城の遺構が、良好な状態で地上および地中に遺存していること
- 城の鎮守としての三芳野神社と社叢・参道及び周辺の土塁群に城址としての景観を留めていること
- 国内に2例のみ現存する本丸御殿が史跡内に残っていること
- 城及び城下町の絵図に記された筆割等が現在でも残っていること

2. 史跡川越城跡を川越市の歴史シンボルとする歴史拠点とし、城址公園によって具現化していく。

- 史跡川越城跡を川越市民のアイデンティティを醸成する歴史シンボルとし、川越城の歴史と川越藩が近世城下町づくりに果たした役割や史跡川越城跡が近現代に果たしてきた役割を伝える歴史拠点とする。その中で、当面初雁公園と中ノ門堀跡、富士見櫓跡等を含むエリアを城址公園と位置付け具現化していく。

3. 城址公園が史跡川越城跡を中心市街地の歴史的文化的遺産とつなげる新たな観光拠点とする。

- 初雁公園と中ノ門堀跡、富士見櫓跡等で構成する城址公園を川越の新たな観光拠点として磨き、近世城下町の町割等を基盤とした近現代の町並みを伝え、中心市街地との時間的、空間的回遊性を強める。

4. 初雁公園が、歴史拠点となる史跡川越城跡と、観光拠点となる城址公園の中心的な役割を担う。

- 初雁公園が中心となり、史跡川越城跡の遺構の保存活用と顕在化や、中心市街地との回遊性のシナリオをつくるなどにより城址公園の骨格をつくり、中ノ門堀跡、富士見櫓跡と連携して展開する。

5. 史跡川越城跡の遺構の顕在化を行い、長期的に川越城の総構^(※)の周知を図る。

- 史跡川越城跡の遺構が確認できた場合などには、顕在化を図るとともに、城址公園への取り込みなどを検討し、川越城の全体像としての総構を見て、感じることができるようにする。

(※) 総構：城の外郭。また、その内部の全体。

3-2. 歴史拠点としての城址公園

史跡川越城跡を以下のようにとらえる。

- ① 文化財の本質的価値とともに、川越城の歴史と川越藩が近世城下町のまちづくりに果たした役割を伝える。
- ② 廃城跡に川越城本丸御殿が様々な活用されることで川越のまちの近代化を支え、庁舎、学校、文化施設が整備され、川越市の近現代の中核を担ってきたことを伝える。
- ③ 川越城の前史については、国指定史跡河越館跡史跡公園によって伝えることができる。
- ④ 近代川越の繁栄を支えた城下町や舟運の歴史は、現在の蔵造りのまち並みや、仙波河岸史跡公園他によって伝えることができる。

近世城下町の形成(中心市街地)

- 慶安年間(1648~52)に松平信綱により町割が定められ、享保3年(1718)の大火後に武家地が拡大し、市街地の基礎が形成される。

川越城の歴史と近世城下町づくりや近現代の都市形成に果たした役割を伝える

<川越城址(史跡川越城跡)>

城址公園

川越城中ノ門堀跡(既存歴史公園)

- 寛永16年(1639)に藩主となった松平信綱は、城の大改修を行い、この際に、中ノ門堀が造られた。西大手門側から本丸方向への敵の進入を阻むために巧みに配された堀である。

川越城本丸御殿(初雁公園)

- 史跡川越城跡の中核となる本丸御殿を保存、公開している。嘉永元年(1848)に完成、入母屋造、棧瓦葺で中央に大唐破風、霧除付の玄関となっている。

富士見櫓跡

- 旧本丸曲輪の南西隅に位置し、二段の段丘から成る方台状の地形を残している。櫓(梁間10.36m、桁行11.33m、高さ10.91m)は消滅している。

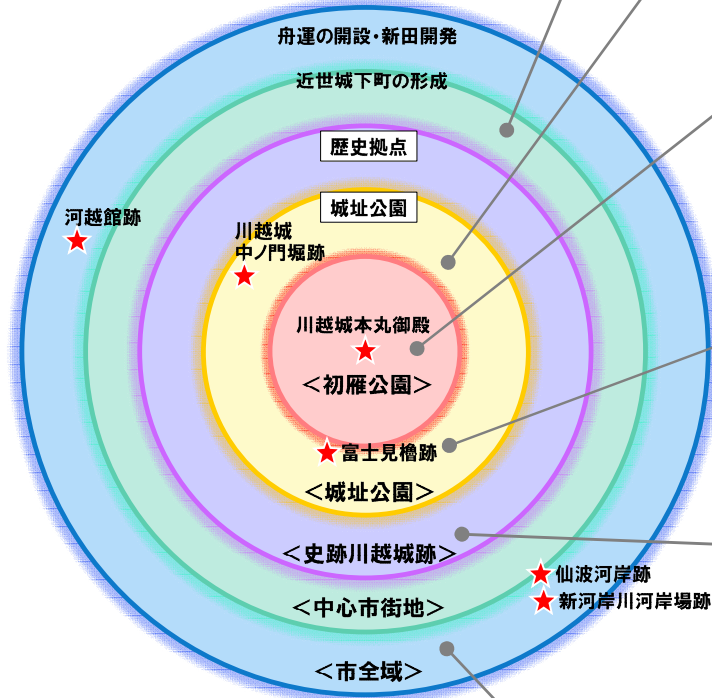
公共施設整備による近現代の川越の都市形成を牽引

- 明治以降史跡川越城跡を活用し、庁舎、教育、文化、公園などの様々な公共施設を整備した。

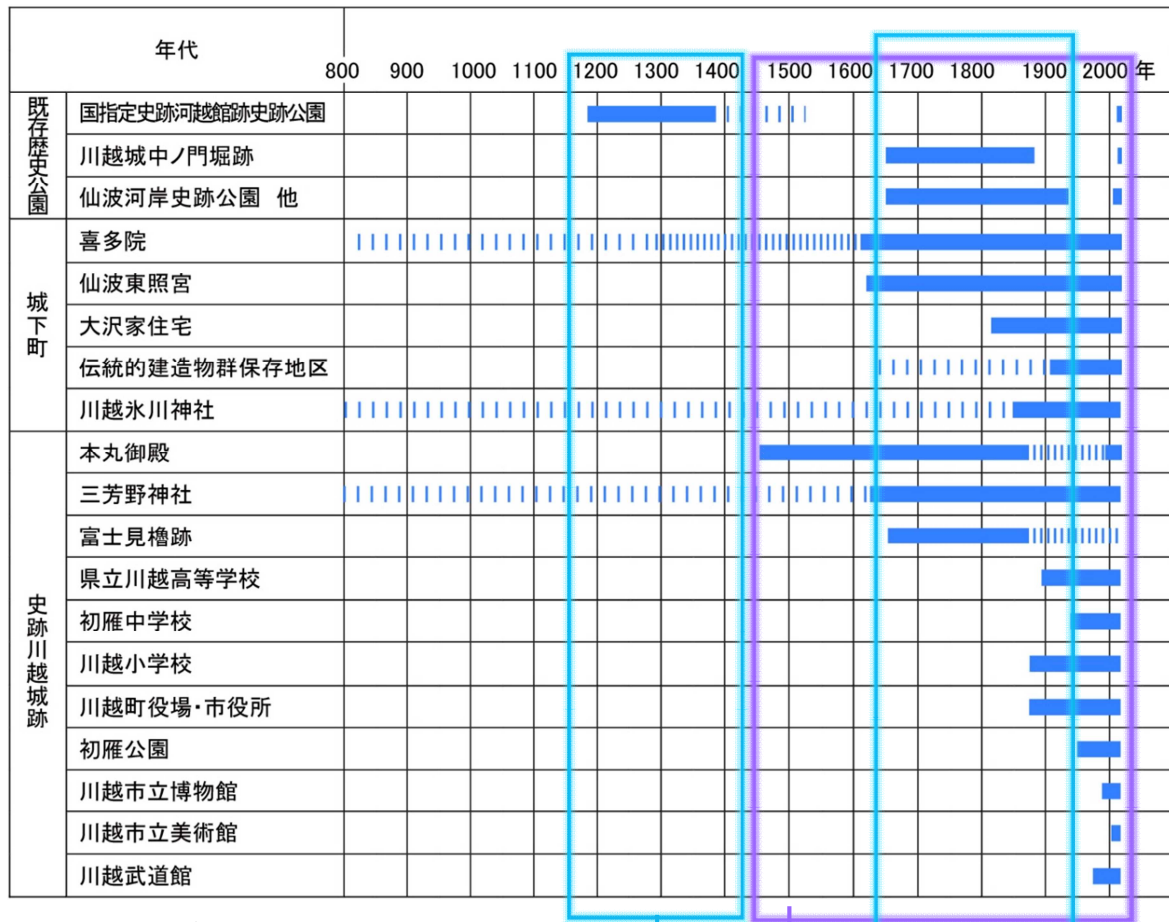
新河岸川の舟運の歴史と近世・近代のまちづくりに果たした役割を伝える

舟運の開設・新田開発

- 慶安年間(1648~52)に松平信綱により新河岸川の舟運が開設され、野火止用水の開削により新田開発がすすめられ、川越発展の基礎をつくった。



■ 既存歴史公園と主な歴史的資源及び教育施設、官公庁施設がかかわった年代

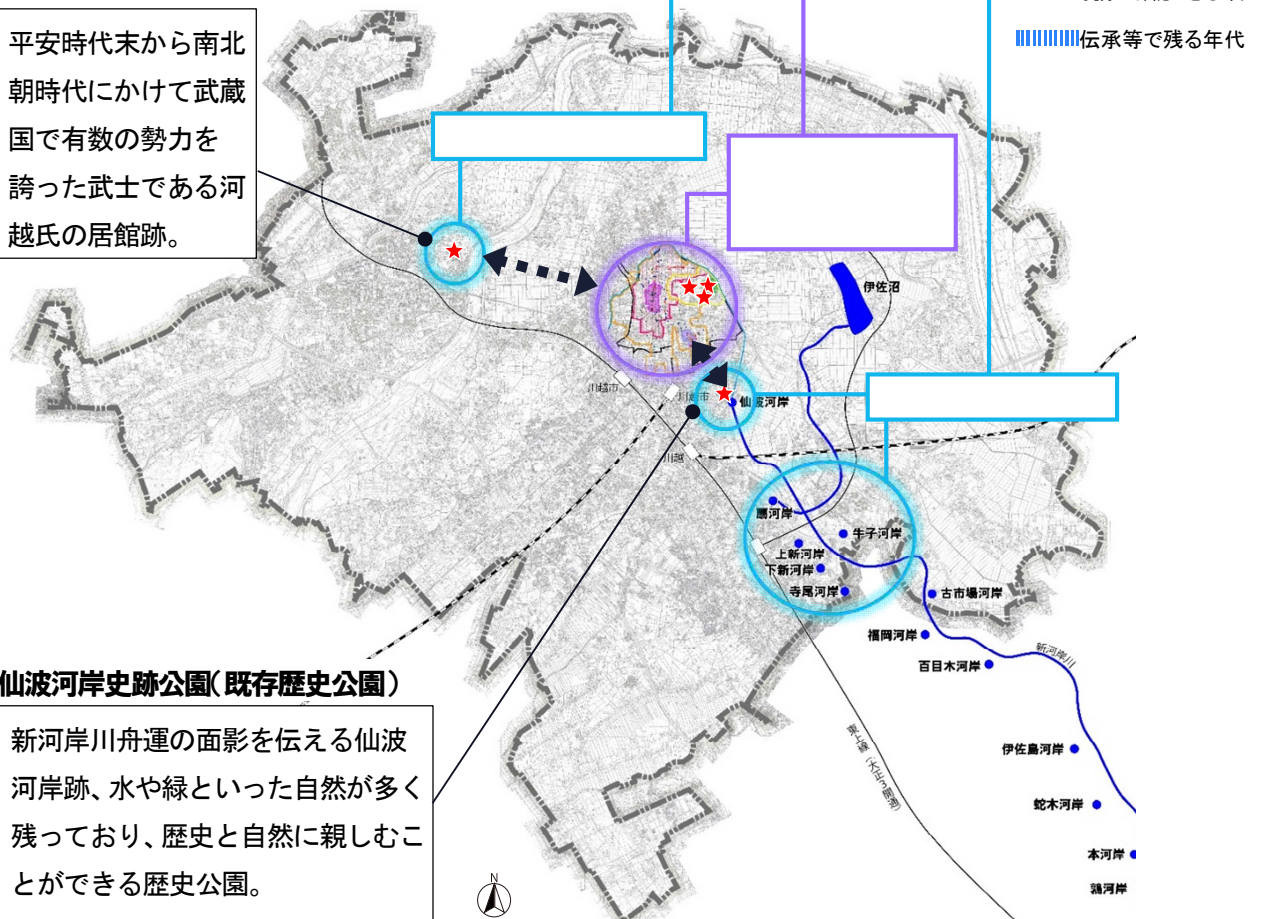


■ 国指定史跡河越館跡史跡公園(既存歴史公園)

- 平安時代末から南北朝時代にかけて武蔵国で有数の勢力を誇った武士である河越氏の居館跡。

□ 仙波河岸史跡公園(既存歴史公園)

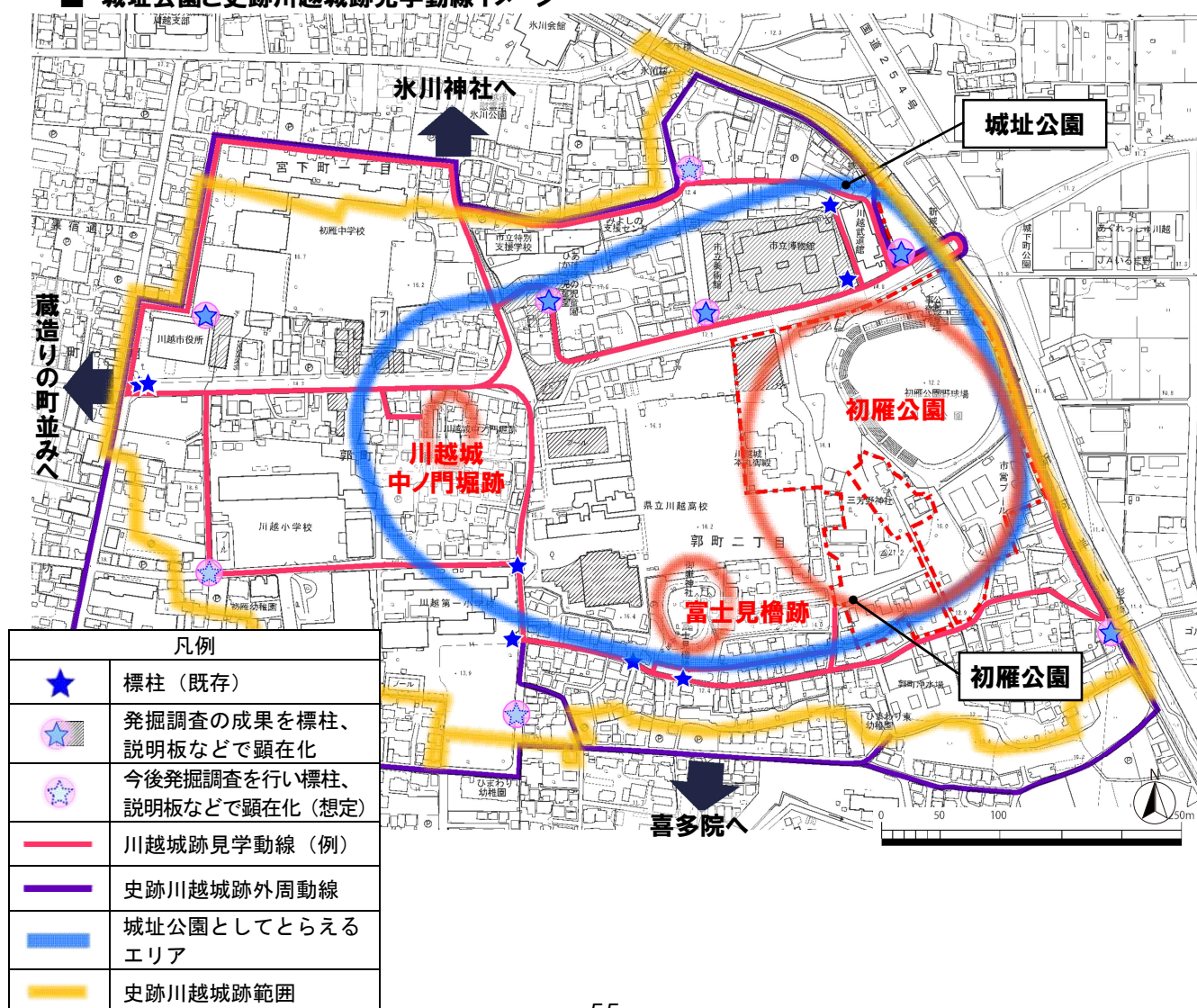
- 新河岸川舟運の面影を伝える仙波河岸跡、水や緑といった自然が多く残っており、歴史と自然に親しむことができる歴史公園。



また、史跡川越城跡の中で川越市の歴史拠点として具現化していく場が城址公園となる。このため歴史拠点としての城址公園は以下のようにとらえる。

- ① 城址公園は、当面、史跡川越城跡の本質的価値を構成する要素である川越城本丸御殿等を有する初雁公園をセンターとして、川越城中ノ門堀跡、富士見橋跡及び博物館等との連携により構成されるエリアとする。ここでのエリアは、区域は設定できないことから、概念的な範囲とする。
- ② 設定された城址公園を中心に、史跡川越城跡内に設置されている標柱を巡るなど史跡の活用を推進する。
- ③ 今後の発掘調査などにより新たに本質的価値を構成する要素等が確認でき、遺物が出土した場合などには積極的に情報発信できるように、城址公園として取り込むなどし、エリアを拡大させていく。
- ④ また、これまでの発掘調査の成果も活用し、遺構の顕在化を行い、エリアの範囲を拡大させていく。
- ⑤ 中心市街地との回遊性を高めるために、蔵造りの町並み、喜多院、氷川神社方向への誘導を図る。

■ 城址公園と史跡川越城跡見学動線イメージ



□城址公園と史跡川越城跡巡りイメージ



3 中ノ門堀跡を説明



4 中曲輪の堀と土塁跡を想像させる高低差を説明



5 ニノ丸、三ノ丸の土塁と堀を想像させる高低差を説明



6 標柱「川越城虎櫓跡」の説明



7 標柱「川越城蓮池門跡」の説明



2 当時の道路を想像させる痕跡を説明



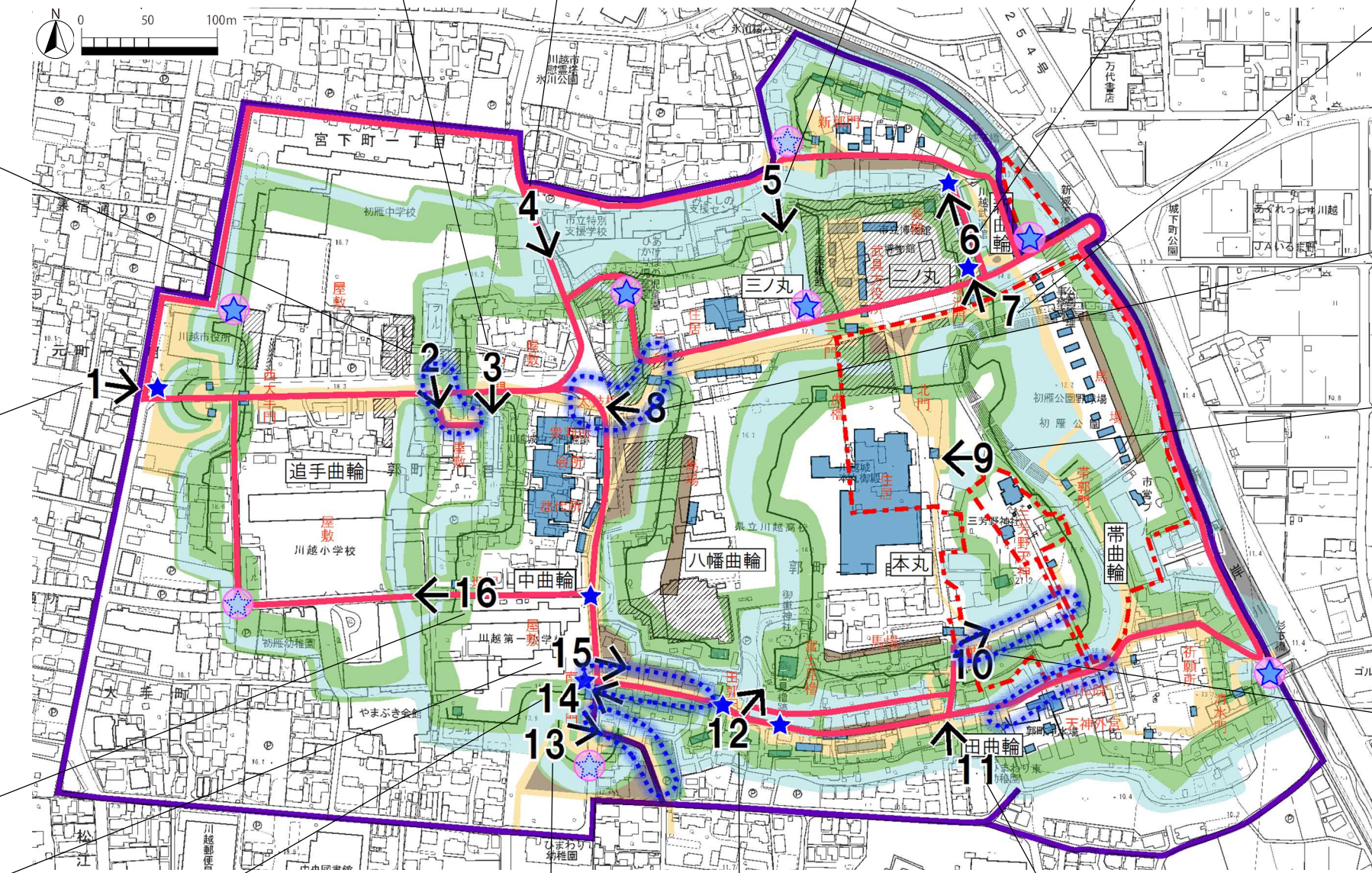
1 当時の道路を想像させる痕跡を説明



16 追手曲輪の堀と土塁跡を想像させる高低差



15 当時の道路を想像させる痕跡を説明



8 当時の道路を想像させる痕跡を説明



9 川越城本丸御殿の見学



10 当時の道路を想像させる痕跡を説明



14 標柱「川越城南大手門」を説明



13 当時の道路を想像させる痕跡を説明



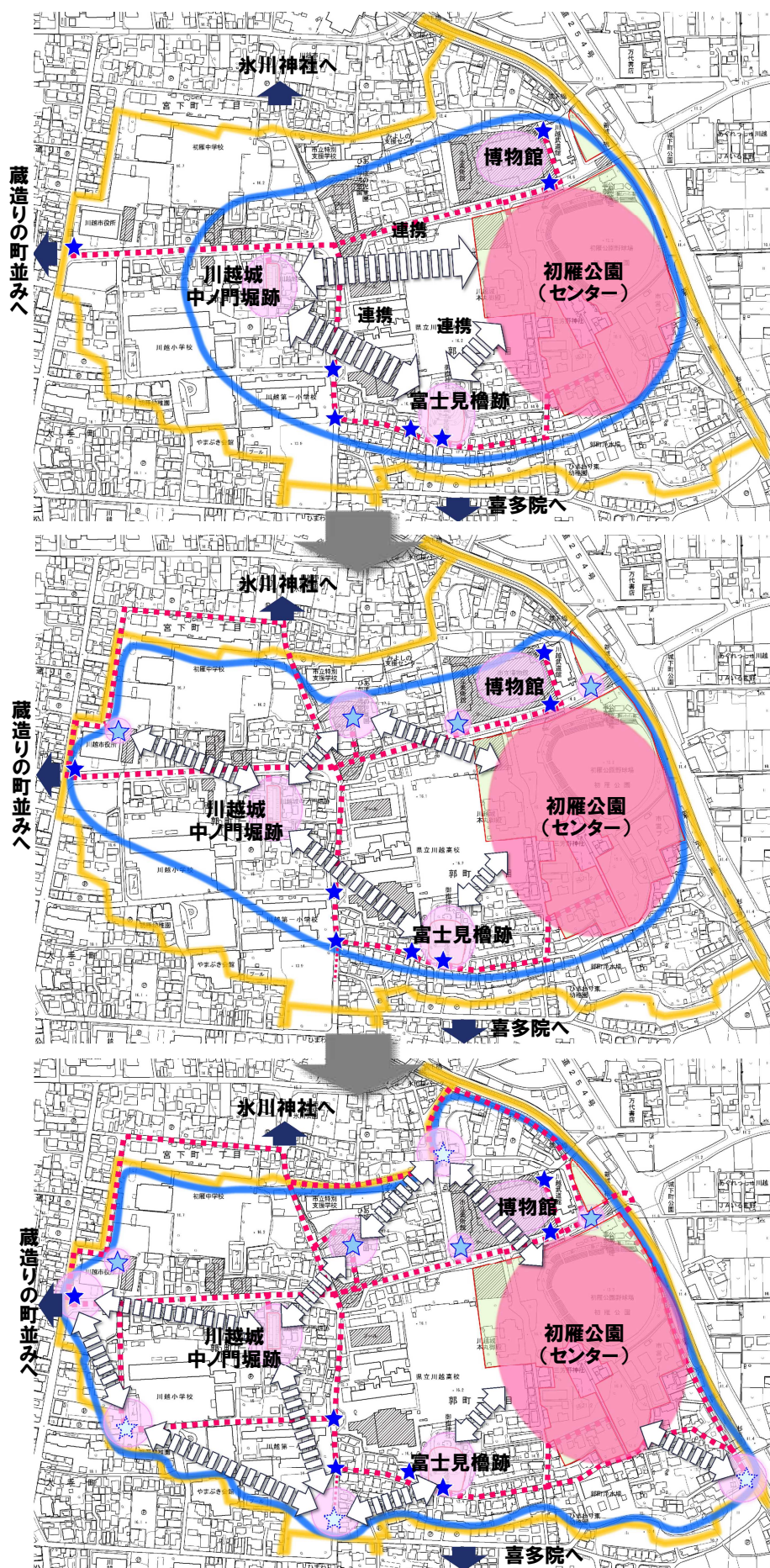
12 富士見櫓跡を説明



11 本丸の堀と土塁跡を想像させる高低差を説明

凡例	
★	標柱(既存)
☆	発掘調査の成果を標柱、説明板などで顕在化
☆	今後発掘調査を行い標柱、説明板などで顕在化(想定)
—	川越城跡見学動線(例)
—	史跡川越城跡外周動線
—	慶応3年当時の道路の形状が現況道路に残っていると想定される範囲

■ 城址公園の拡大展開イメージ



初雁公園をセンターに中ノ門堀跡、富士見櫓跡及び博物館と既存の標柱を巡る。

発掘調査の成果を顕在化して見学ルートとし、城址公園を拡大する。

新たに発掘調査をし、その成果を顕在化して見学ルートとし、城址公園を史跡川越城跡全体に拡大する。

3-3. 観光拠点としての城址公園

観光拠点としての城址公園は以下のようにとらえる。

- 蔵造りの町並みで多くの観光客を集めている中心市街地は、近世城下町を基盤に発展し川越城と深く関係しているため、城址公園が、近世城下町の都市形成の歴史を、川越城、川越藩の歴史とあわせて伝える。
- 川越のまちを知り、楽しむためには、川越城、川越藩をテーマとしてまち歩きをすることが効果的であり、このため観光拠点として城址公園が中心となって、このテーマを発信する役割を担う。
- 城址公園にとっても、蔵造りの町並みエリアや喜多院エリアからの回遊性を高めることで相乗効果を発揮し、更なる集客力の向上を期待する。

尚、「小江戸川越みどころ 90 観光コース」の中で、川越城、城下町、舟運など川越藩に関連する歴史めぐりコースとして以下のコースがあり、これらの活用も考えられる。

名称	概要
川越城旧跡めぐりコース	今も残る本丸御殿を始めとし、川越城の旧跡をたどるコースです。遺構からゆかりの地まで様々な土地をめぐり、在りし日の城下町に思いを馳せます。
川越城城下町めぐりコース	江戸時代に隆盛を誇った川越藩のシンボル、旧川越城にまつわる土地を散策し、かつての城下町の雰囲気を堪能するコースです。
川越城の七不思議めぐりコース	「川越城の七不思議」にまつわる土地をめぐるコースです。
徳川家ゆかりの地をめぐるコース	江戸時代に川越藩が成立して以来、深い関わりを持つ徳川将軍家ゆかりの喜多院、仙波東照宮などの寺社や史跡をめぐるコースです。
蔵造りの町並みと新河岸川をめぐるコース	川越城下町の面影を残す蔵造りの町並みと新河岸川付近の、歴史的な観光スポットなどを訪ねて行くコースです。

■ 観光拠点としての城址公園の役割と城下町見学動線イメージ

